

【1級 第3回 実技（面接）試験 ロールプレイケース内容】

ロールプレイ（以下R Pという。）は、事例相談者と受検者（事例指導者役）のみで行います。相談者に関することはR Pの中で、事例相談者に説明を求めてください。

ケース 1

事例相談者：キャリア・コンサルタント

相談者：Aさん、女性（52歳）

相談者が相談したこと：半年前に総務・経理部門の管理職に昇進したが、部下の男性社員の対応に悩んでいる。自分には管理職としての適性がないのでは、このまま仕事を続けていいのかと相談に来た。

キャリア・コンサルタントが相談したいこと：Aさんに対して、今は立場が変わったことを自覚し、部下に対して仕事の指示は明確にし、任せられることは任せるようにすることを助言した。Aさんは腑に落ちないような表情で面接を終了した。助言の仕方に問題があったのではないかと思い、指導を受けたい。

ケース 2

事例相談者：キャリア・コンサルタント

相談者：Bさん、男性（36歳）

相談者が相談したこと：現在エレベータの保守管理の仕事をしている。やりがいもあり満足して働いていたが、人事異動で営業に行くことになった。今までと全く違う仕事であり、接客の自信もない。転職しようかどうかと悩み相談に来た。

キャリア・コンサルタントが相談したいこと：Bさんの現在の仕事に対する思いと、異動についての戸惑い、営業に対する不安を受け止め、信頼関係を構築した。Bさんは自分の気持ちを話せてよかったと述べられ、不安な気持ちも解消できたようだったが、次の面接に来談しなかった。何が不足していたのか、指導を受けたい。

ケース 3

事例相談者：キャリア・コンサルタント

相談者：Cさん、男性（22歳）

相談者が相談したこと：商社と金融を中心に就職活動をしたが内定がもらえなかった。今後、中小企業の就職活動をするよりも、1年留年して来年度新卒として再チャレンジしたいがそれが不利になるのかどうか相談にきた。

キャリア・コンサルタントが相談したいこと：準備さえすれば良い結果が出せると留年に同意し、来年にむけて一緒に準備していこうと提案したが、同僚とのケース勉強会で、卒業まで就職活動を続けるように助言すべきだったのではないかと指摘された。対応の仕方がこれでよかったのか、指導を受けたい。

以上